

平成25年度 業務実績報告書

平成26年 6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	<p>昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設</p> <p>昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設</p> <p>昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学</p> <p>平成 4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設</p> <p>平成 9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設</p> <p>平成15年(2003)4月 看護学部開設</p> <p>平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行</p> <p>平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設</p>
法人の目標	<p>公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。</p> <p>特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 <p>1 教育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 <p>2 研究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。</p> <p>3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。</p> <p>4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。</p> <p>5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。</p> <p>6 評価及び情報公開:評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・情報公開
法人の業務	<ol style="list-style-type: none"> 1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報

(1)役員

役員の数値は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員
の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成24年4月1日 ～平成28年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和49年 4月 九州大学助手 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	田中 豊司	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和52年 4月 福岡銀行入社 平成18年 6月 福岡銀行 地域金融部長(執行役員) 平成19年 6月 福岡銀行 筑豊地区本部長(執行役員) 平成20年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	武田 清一	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和43年 5月 福岡県採用 平成 4年 4月 財政課理財係長 平成 8年 4月 出納・総務課長補佐 平成15年 4月 教育庁財務課長 平成18年 4月 私学振興課長 平成20年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	麻生 泰	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和50年 5月 麻生セメント(株) 監査役 昭和52年 6月 麻生セメント(株) 専務取締役 昭和54年12月 麻生セメント(株) 取締役社長 昭和56年 4月 (社)経済団体連合会理事 昭和59年 4月 (社)セメント協会副会長 平成 2年 4月 (社)経済団体連合会評議員 平成 4年 6月 麻生商事(株) 取締役会長 平成 8年12月 飯塚商工会議所会頭 平成11年 1月 慶應義塾監事 平成13年 8月 新・麻生セメント(株) 代表取締役社長 平成16年 6月 麻生ラファージュセメント(株) 代表取締役社長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成22年 6月 (株)麻生 代表取締役会長

理事(学外)	芳賀 晟 壽	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成 5年 2月 NHK九州地方番組審議会委員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長
理事(学内)	古 橋 啓 介	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和54年 4月 山形大学教育学部講師 昭和56年10月 山形大学教育学部助教授 平成 4年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成14年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 兼大学院研究科長 平成15年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 兼人間社会学部長 兼大学院人間社会学研究科長 平成22年 4月 公立大学法人福岡県立大学教授 兼附属図書館長
理事(学内)	松 浦 賢 長	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和60年 3月 東京大学医学部保健学科卒業 平成 2年 3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 2年 4月 日本総合愛育研究所研究員 平成 3年 3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年 4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年 3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年 4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年 4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年 4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長
監事	古 本 栄 一	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	平成 6年 4月 弁護士開業 平成21年 2月 古本法律事務所開設 平成24年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	本 田 征 洋	平成24年4月1日 ～平成26年3月31日	昭和44年 9月 昭和監査法人入所 昭和53年 7月 監査法人中央会計事務所入所 昭和54年 4月 公認会計士・税理士本田征洋事務所開業 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事

(2)教員

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
教員数	常勤(正規)	106人	105人	109人	110人	110人	110人	
	内訳	教授	28人	31人	30人	28人	26人	28人
		准教授	31人	30人	31人	28人	34人	32人
		講師	16人	16人	19人	25人	20人	20人
		助教	—	6人	12人	15人	17人	19人
		助手	31人	22人	17人	14人	13人	11人
	非常勤講師	87人	65人	115人	109人	125人	134人	
合計	193人	170人	224人	219人	235人	244人		

教員数増減の主な理由

非常勤講師の増は、看護学部のカリキュラム移行に伴い、「病態看護学Ⅰ」が主に非常勤講師によるオムニバス方式で開講されたこと、及び常勤教員が担当していた「現代社会論B」や「経済学A」等を非常勤講師が担当したことによる。

(3)職員

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人	1人	
	正規職員	県派遣	21人	21人	20人	20人	18人	15人
		プロパー	0人	0人	0人	0人	2人	5人
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	21人	21人	20人	20人	20人	20人	
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	6人	7人	8人	8人	10人	11人		
合計	28人	29人	29人	29人	31人	32人		

職員数増減の主な理由

(4)法人の組織構成

別紙のとおり

3. 学生に関する情報

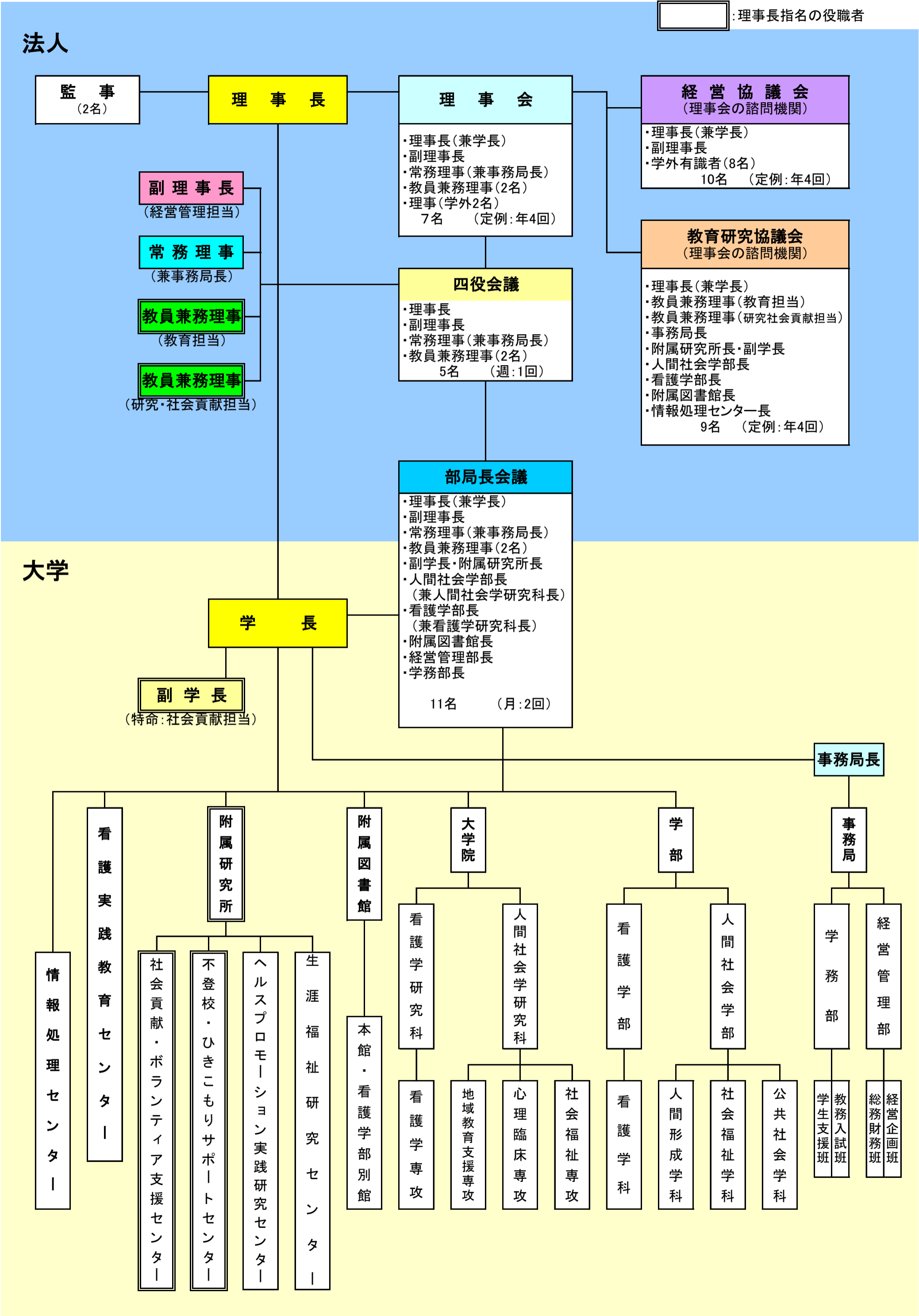
関連する 学部・大学 院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
人間社会学	計	630名	725名	115%	115	117	117	118	116	115
内訳	人間社会学部	600名	698名	116%	116	117	116	118	117	116
	公共社会学科	200名	237名	119%	113	113	116	118	118	119
	社会福祉学科	200名	232名	116%	120	119	116	116	117	116
	人間形成学科	200名	229名	115%	117	119	118	120	116	115
	大学院 人間社会学研究科	30名	27名	90%	97	110	130	120	90	90
看護学部	計	384名	381名	99%	99	102	102	99	100	99
内訳	看護学部	360名	356名	99%	99	102	104	101	99	99
	看護学科	360名	356名	99%	99	102	104	101	99	99
	大学院 看護学研究科	24名	25名	104%	92	108	83	79	108	104

収容定員と収容数に差がある場合の主な理由

大学院人間社会学研究科の定員充足率が100%を下回っている理由は、入学志願者が少なかったことによるものである。

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田 洋三郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	田中 豊司	平成24年4月1日～平成26年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋吉 一明	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	伊藤 信勝	平成24年4月1日～平成26年3月31日	田川市長
	川上 鉄夫	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北原 守	平成24年4月1日～平成26年3月31日	社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会 理事長
	齋藤 明	平成24年4月1日～平成26年3月31日	独立行政法人大学入試センター 監事
	佐渡 文夫	平成24年4月1日～平成26年3月31日	田川商工会議所 会頭
	立石 研一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	吉村 恭幸	平成24年4月1日～平成26年3月31日	(一財)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田 洋三郎	平成24年4月1日～平成28年3月31日	理事長
学部長	小松 啓子	平成24年4月1日～平成26年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
	永嶋 由理子	平成24年4月1日～平成26年3月31日	看護学部長兼看護学研究科長
学内組織の長	佐藤 香代	平成24年4月1日～平成26年3月31日	附属図書館長
	武田 清一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	事務局長
	田中美智子	平成24年4月1日～平成26年3月31日	情報処理センター長
	古橋 啓介	平成24年4月1日～平成26年3月31日	教員兼務理事
	森山 沾一	平成24年4月1日～平成26年3月31日	副学長兼附属研究所長
	松浦 賢長	平成25年4月1日～平成26年3月31日	教員兼務理事

: 理事長指名の役職者



全体評価

法人自己評価	評価委員会意見・コメント等
<p>I 全体</p> <p>学長のリーダーシップのもと、大学改革を推進しました。大学憲章の制定、改革推進委員会の設置、委員会・部会の抜本的再編、そして教員個人業績評価における学長裁量枠の確保、教員表彰制度の創設などです。</p> <p>入口管理は、質の高い学生確保のために、入試広報活動手許資料を作成し、オープンキャンパス(2回)、入試説明会、高校訪問等を全学的に教職員協働で推進しました。その結果、平成25年度のオープンキャンパスの参加者は目標の170%に達しましたが、平成26年度入学者選抜試験における学部実質倍率は2.54倍となりました。</p> <p>出口管理は、進路・就職委員会並びに3つの小部会のもと、国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は97.6%、助産師100%、保健師93.9%、社会福祉士70.6%、精神保健福祉士100%と高い合格率を達成することができました。就職対策としては、キャリアサポートセンターの利用を促進し、就職率は98.0%と高い水準を達成しました。</p> <p>教育は、教養教育、専門教育、両学部の専門領域を学ぶカリキュラムなどを継続して実施しました。また、eラーニングシステムの利用促進を図り、92コースを開設し、学生の利用率は82.3%となりました。教員の教育能力向上のFD活動を推進し、大学院FDの充実を図るとともに、学部では3回のFDセミナーを開催し、教育の質の向上に取り組みました。その結果、FD研修会等への教員参加率は95.1%となりました。学生の成績評価ではシラバスの検討、GPA制度を実施し、GPA高得点の学生を卒業証書授与式で表彰しました。</p> <p>研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は57,589千円、平成26年度科学研究費応募率は94.3%となり、目標を上回る水準を維持しました。附属研究所4センターの調整部会を毎月開催、公開講座も附属研究所内に小部会を設け、活性化を図りました。査読付き論文数は74件、招待講演等の学会発表数は13件となっています。</p> <p>研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地(知)の拠点作りを目指す大学としての取り組み(COC)を重点課題としました。また、これまでの個別研究に加え、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を開始し、さらに追加募集として教育を課題とした研究に助成するなど、研究を積極的に推進してきました。田川市とは、包括的連携協定を基に研究助成金制度事業などを進めるとともに、新たに福岡県立大学と田川地域(8市町村)との間で包括連携に関する協定を締結しました。「教員免許状更新講習」は継続して実施しました。</p> <p>公立大学法人である本学の役割は、福祉系総合大学として保健・医療・福祉の高度な専門的人材の養成とともに地域密着型活動であります。地域貢献における各種活動を附属研究所4センターを中心に活発に行うことができました。</p> <p>国際交流は、南京(ナンキン)師範大学、大邱(テグ)韓医大、北京中医薬大学(中国)、三育大(韓国)、コンケン大(タイ)と積極的に実施しました。また受入留学生に対する環境整備などに努力し、受入留学生は15名となりました。</p> <p>総合的には、法人化中期計画第2期の2年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、教育・研究改革とともに強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。</p> <p>II 中期目標項目別</p> <p>1 教育</p> <p>1. 教養教育の充実については、全学共通科目の再編やコア科目の新設について検討しました。また、情報リテラシーや日本語リテラシーの体系化と新科目開設について検討しました。スキルアップゼミについては4コースを開講しました。</p> <p>2. 両学部の専門教育の充実については、人間社会学部では専門教育及び資格関係科目の充実に向けて、カリキュラムの変更をはじめ、開講年次の見直し、学科ディプロマポリシーの検討・作成をおこないました。看護学部では2年目となった新カリキュラムを実施する中で学生からの意見徴集をおこない、授業アンケートの学生意見欄も参考にして来年度の授業内容について検討をおこないました。東洋医療を導入した教育プログラムの構築を進め、ホリスティック看護学に取り組んでいます。実習教育の充実のため、人間社会学部では実習教育の現状を再検討し、問題を改善しました。事前事後指導を全ての実習に関して開講しました。看護学部では実習指導者連絡会議の開催や事後指導の充実などに取り組みました。両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、両学部で学ぶ専門的連携科目の実施および他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラムの実施を進めました。両研究科の専門教育の充実については、人間社会学研究科ではカリキュラムの見直しに入り、3科目を新たに開講しました。看護学研究科では専門看護師コースの充実のため、「精神看護コース」「老年看護コース」「助産学コース」の申請準備をおこないました。他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部ではインターンシップの高度化案をもとに、九州・沖縄の23大学と連携をはじめました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄構想コンソーシアム」会議を2回開催し、相互受講システムの開発、大学連携による授業科目の提供等の充実を図りました。</p> <p>3. 教育効果を検証するシステムの構築に向け、学生による授業評価アンケート結果を学長・各学部長が共有する仕組みを運用しました。FDセミナーを開催し授業評価の利用に関する研修を行いました。学生座談会を開催し学生のニーズ把握を行いました。アウトカム評価システム充実のため、人間社会学部では就職先へのアンケートの実施、4年生に対する進路希望アンケートを行い、結果に基づいて対応・指導しました。看護学部では前年度の国家試験不合格者に対する指導、就職先へのアンケートを実施しました。</p> <p>4. 教員の教育能力の向上については、両学部でFDセミナーを開催しました。授業参観システムを構築し、実施しました。公開授業の仕組みも構築し、実施しました。両研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。大学院FD活動には全教員が取り組みました。他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、人間社会学部では合同研修会、研究大会を行いました。看護学部では合同講習会、研修会を開催しました。</p>	

5. 優秀な学生の確保については、学部入試部会では入試選抜方法と入学後の成績の関連や高大連携事業について検討しました。大学院入試部会では現状分析を行い、学部学生に対する説明会、オープンキャンパス時の説明会を開催しました。積極的な広報活動として、これまでの取組の実施・修正を行うとともに、学部入試部会で入試広報活動手許資料を作成し、入試説明会等での広報活動に役立てました。福岡県外の高校への情報提供および個人への情報提供について検討しました。ホームページの入試情報の内容を精査し、更新を早めました。
6. 学生支援の充実については、入学から卒業までのキャリア支援体制の強化として、キャリアサポートセンターと進路就職委員会の連携強化、系統的キャリア支援講座の開催等の活動を実施しました。大学間の学生コンソーシアムを構築して学生間の交流を促進することに取り組みました。大学院生への支援支援として、研究助成金や入学金減免措置の導入を検討しました。
7. 学習環境の充実としては、IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。社会人が学びやすい学習環境の充実のため、両研究科では博多サテライト教室の利用促進、eラーニングの充実、学外からの図書館データベースの利用に取り組みました。図書館看護学部分館にラーニングcommonsを計画を前倒して設置しました。
8. 人間社会学部の改革は、人間社会学部将来構想プロジェクト会議による将来構想が理事長に提出されました。これを受けて、理事長の下に設置された改革推進検討部会がさらに検討を重ね、年度末の教授会において将来構想(案)として承認されました。
9. 両学部連携の大学院博士課程の新設については、人間社会学部会改革と修士課程の状況を鑑み、引き続きW.G.にて検討を重ねることにしました。

実施事項別評価は、Aは4項目、Bは20項目とします。

2 研究

1. 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組を行いました。
 - ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、学際的研究の可能性を探るため、教員や学外機関にヒアリングを行いました。産官学連携のニュースを学内メールで広報するとともに調整部会で協議し、学内外に広報しました。協定校等と研究者等の交流促進については、地域の関係機関とともにシンポジウムを行い、協定校の研究者と協議をおこないました。学際的研究プロジェクト数が4件、学際的研究プロジェクトの成果発表会を2回、産学官連携契約件数2件となりました。また、提携協定校との共同研究数は2件、招聘件数は5件となりました。
 - ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が94.3%、科研費獲得件数30件、金額が57,589千円となり、目標を大きく上回りました。
 - ③ 研究倫理の徹底については、研究倫理委員会では委員1名が学外研修に参加しました。若手研究者を対象としたセミナーを開催しました。また動物実験に関する委員会では動物実験の実施報告書を作成しました。

実施事項別評価は、Aは1項目、Bは2項目とします。

3 社会貢献

1. 地域とともに発展する国際交流の推進については、以下の取組を行いました。
 - ① 国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、国際交流センター規定案を作成しました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員が11名交流し、文化交流プログラムを1回実施しました。
 - ② 受入留学生の支援としては、日本語向上を目的として日本語教科を4科目から6科目へ増やしました。受入留学生数は15名でした。
 - ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、県立大学に所蔵されている世界記憶遺産登録絵画4点について英文化を進めることにしました。
2. 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組を行いました。
 - ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく共同研究(3件)が実施されました。県立大学・田川地域推進協議会にて、田川市郡との包括連携協定を締結しました。県立三大学連携による公開講座を行い、152人の参加を得ました。
 - ② 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。健康教室は21件開催しました。不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行いました。福岡県や市町村主催事業への新たな参画もあり、延べ2,767人を派遣しました。不登校傾向の児童・生徒が夏休みにキャンパススクールに通級できる新たな事業を開始し、キャンパススクール事業は延べ1,328人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は56%と高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が131件、活動学生数が延べ447人となりました。地元商店街の交流拠点活用や福岡県主催の大学生災害ボランティアサポーター事業に参画しました。
 - ③ 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組を行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座を実施しました。スキルアップ講座は共催を希望する地方自治体が出てきました。ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を10事業行いました。リカレント教育については、両学部合わせて10人の卒業生が参加しました。
 - ④ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、山本作兵衛コレクションが全国放送や国際アーカイブズ講演で県立大学の業績として紹介され、全国的な認知を得ました。
 - ⑤ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。また糖尿病健康教育活動を大学祭等で行いました。認定看護師コースの入学試験倍率は1.06倍、認定審査合格率は100%となりました。

実施事項別評価は、A+は1項目、Aは3項目、Bは7項目とします。

4 業務運営

1 運営体制の改善については、以下の取り組みを行いました。

- ① **事務局機能の強化**については、3名のプロパー職員を採用し、経営企画、総務財務及び教務入試担当部署に配置するとともに、平成26年度プロパー職員採用試験を三大学合同で実施し、2名の採用予定を決定しました。また、業務マニュアルの統一様式を作成し、引き継ぎ等において、情報の共有化を行いました。さらに、事務職員の資質・意識の向上を図るため、公立大学協会の研修・セミナーに新規採用職員を参加させるとともに、学内においても、学内のSD研修を開催し、事務職員の資質や意識の向上を図りました。
- ② **教員の士気を高める教育環境の整備**については、改革推進委員会においてベストティーチャー表彰を含む表彰制度について、検討を行い、ベストティーチャーを選定し、2名を決定し、教員表彰を行いました。また、授業担当科目数の実態調査に基づき、授業負担の大きい教員の授業に補助員を配置し、負担軽減を図りました。
- ③ **教員の個人業績評価システムの改善**については、個人業績評価基準の見直しに関する委員会を開催し、見直し方針・見直し案を策定するとともに、両学部教授会の意見を聴取し、最終案を「大学改革セミナー」において、教員に説明を行いました。
- ④ **リスクマネジメント体制の整備**については、調査した他の公立大学のリスクマネジメント体制や国大協、公大協の資料を基に基本指針(案)を作成しました。また、9分野において28のリスクを洗い出し、リスク別の対応方法(案)を作成しました。

実施事項別評価は、Bは4項目とします。

5 財務

- 1 自己収入の積極的な確保については、教員に対し必要に応じ事務局で支援を行うとともに、外部資金一覧等をホームページに掲載し、情報提供の機能強化に努めました。また、科研費応募率向上のための研修会を開催するなどの取組みにより、外部研究資金等の獲得については科学研究費等の外部研究資金に加え、大型の教育等に関する外部資金の獲得により、目標数値を大幅に上回ることができました。さらに、寄附金等を増加させるため、福岡県立大学基金について、大学広報誌やホームページに基金の目的、受入口座、税控除制度などについて、広報活動を行いました。
- 2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組を行いました。
 - ① **業務改善による経費の削減**については、物品購入等の発注方法の見直しにより、集中できる可能な品目について、学内LANを活用した消耗品の集中発注システム活用について周知を行い、活用中であります。また、初期投資を要しない省エネ対策の推進については、省エネ推進部会を開催し、冷房温度設定、エレベーターの稼働台数の間引きや学生の使用禁止、廊下等の照明間引き点灯などを決定し、節減対策に取り組みました。
 - ② **人件費の抑制**については、教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員を中心とした公募採用を行うとともに、時間外勤務縮減の取組を実施し、前年度実績を下回る目標数値は達成できました。

実施事項別評価は、A+は1項目、Bは2項目とします。

6 評価及び情報公開

1. 自己評価の効率的な実施については、「ベストティーチャーの選定」「教員の相互授業参観」「公開授業」を実施しました。「人間社会学部再編計画」「教員個人業績評価の見直し」について提案書を作成しました。また、教員の教育・研究社会貢献のデータを収集し、一覧を作成し、ホームページに掲載しました。
2. 広報活動の充実・強化については、ホームページの更新体制の充実と内容の掲載ページの検討を行いました。紙媒体の大学案内と大学広報を計4号発刊しました。出前講義は26回実施しました。福岡県の広報テレビ番組に1回取り上げられました。メディアに取り上げられた回数は地方版が18件、全国版が2件でした。

実施事項別評価は、2項目ともBとします。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

- ・人間社会学部と看護学部の連携による魅力ある教育システムの構築については、引き続き「両学部で学ぶ専門的連携科目」を開講し、「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」を実施しました。
- ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組を進め、不登校・ひきこもりサポートセンターの取組では新たな事業を開始しました。海外提携協定校との共同研究2件、招聘5件の成果を得ました。
- ・専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員を3名採用し、さらに翌年度2名の採用を決定しました。
- ・地域に貢献する大学としての認知度向上については、山本作兵衛コレクションが全国的にメディアで取り上げられ、認知度アップに貢献しました。

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
	<p>2【教養演習・総合科目の改善】 <両学部の教養演習、総合科目></p> <p>①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善</p> <p>②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・韓国語教育の充実</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> :全学の教養演習及び総合科目において C以上 80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 :2科目増設</p>	1-1	<p>【平成25年度計画】</p> <p>【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実を図る。 ○学生編集委員会を中心に、平成24年度教養テキストの内容・イラストを改善し、改訂版を作成する。 ○共通テキストの大幅な見直し案の作成を行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目案と既存科目教育内容の変更について検討する。</p> <p><語学教育の充実> ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入する外部テストを、各学部・学科の1年生対象に年2回実施する。 ○教養演習英語クラスの平成26年度からの開講を目指し、教育内容と方法を確定して開設案を作成する。 ○平成24年度計画に基づき購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等を韓国語教育に積極的に活用する。同時に中国語クラスにおける異文化理解教育について検討する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績<人間社会学部><看護学部> :全学の教養演習及び総合科目において C以上 80%</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実では、全学「教養演習」担当者会議を2回開催し、授業の目的や評価方法等の確認を行うとともに、授業の進め方、授業内での問題解決方法についてFD活動を行った。 ○学生編集委員会を中心に平成25年度教養テキストの改訂を実施した。 ○共通テキストの大幅な見直し案作成では、本学のみならず他大学でも使用できるテキスト作成という新方針に基づいて、大幅な修正を加えた編集基本案を作成した。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための教育内容の変更については、オムニバス形式による新科目の開設、英語を実践的に活用する科目の新設等につき検討した。</p> <p><語学教育の充実> ○英語教育見直しのひとつとして外部テストを導入し、各学部・学科の1年生対象に2回実施した。 ○教養演習英語クラスが新科目として承認され、平成26年4月からの開設が決定した。 ○平成24年度計画に基づき購入した、異文化理解のための韓国の伝統衣装や伝統工芸品等を韓国語教育に活用した。同時に中国語クラスにおける異文化理解教育について検討し、来年度に向けて準備を開始した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績 : 全学の教養演習及び総合科目において C以上 94.5%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		2

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 専門教育の充実 専門教育は、本学の特色を活かし、専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 人間社会学部では、現行のカリキュラム体制の見直しと再編を図り、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する福祉専門職、心理専門職、地域マネジメントに関する職業人の育成を図っていく。 看護学部では、社会的に実践能力の高い看護職が求められており、「学部における看護実践能力を育成するカリキュラムの充実・強化」が必要である。健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる看護師・保健師・助産師・養護教諭の育成を目指す。なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。 また、専門職としての規範意識の向上と職業倫	1【カリキュラムと科目内容の検討】 <人間社会学部><看護学部> ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において C以上80%	1-1【平成25年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 <人間社会学部> ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 <公共社会学科> ・二つのコースの専門科目の改善・充実に検討する。 <社会福祉学科> ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実に検討する。 <人間形成学科> ・三つの「領域」と「履修コース」との関連を見直し、専門科目の改善・実施を検討する。 <看護学部> ○2年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・カリキュラム検証委員会及び教務部会で、2年目の新たな科目と変更科目について担当教員から学習内容・課題の聞き取りを実施する。 ・学生からの意見聴取(前期・後期各1回)を行い、その意見をカリキュラムの授業内容に反映させる。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・平成25年度は実習運営部会と連携し、外部講師の講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において：C以上 80%	1	【平成25年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討】 <人間社会学部> ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 <公共社会学科> ・二つのコースの専門科目の改善・充実に検討し、次年度より、経験型学習として学生が主体的に取り組めるよう現1年次開講「公共性学習ツアー」の2年次ゼミ内での実施への変更、教職(高校公民)専門科目への「道德教育」の追加、卒論に関する規則・細則・評価基準の見直しと学生への周知、「社会的企業家論」の廃止等、カリキュラムの改変を行った。 ・4年間の教職課程の流れを体系的に把握できるよう「教職課程履修ガイド」を冊子として作成した。 ・学科のディプロマポリシー案を検討、作成した。 <社会福祉学科> ・3つの専門職養成(社会福祉士、精神保健福祉士、学校ソーシャルワーカー)の体系について検討した。結果、学生の「学校ソーシャルワーク論」の授業内容の理解充実に図るため、その基礎知識となる「学校ソーシャルワーク論」の対象学年を4年前期から3年後期に移行した。また、社会福祉士の上級資格である認定社会福祉士制度について各大学の対応情報等を収集し、本学の将来構想との関係をふまえて検討をはじめることとなった。 ・学科のディプロマポリシー案を検討・作成した。 <人間形成学科> ・「領域」と「コース」の関係につき、「領域」は専門教育課程における三つの「系」に対応し、「コース」は各「領域」を含む履修モデルであることを学科内で再確認した上で、学科のディプロマポリシー案を作成し、学生教育と学科運営の実態に合わせた改善・充実の検討に着手した。 ・社会教育主事基礎資格に必要な専門科目を見直し、改善を行った。 <看護学部> ○2年目に向けた新カリキュラムの科目を滞りなく実施する。 ・新科目及び変更科目について、担当教員から学習内容・課題に関する調査を行った。 ・学生を対象に前期及び後期科目に対する意見を調査した。 ・授業アンケートの学生意見欄を参考に、来年度の授業内容について検討した。 また、来年度の科目が滞りなく実施できるように時間割を作成しシミュレーションを行った。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション及び2年生・3年生・4年生の前期実習前オリエンテーションで強化を図った。 ・平成25年度は実習運営部会・教務部会・全学教務部会と連携し、「看護倫理」について外部講師の講義を実施した。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において：C以上 89.2%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3
		1【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	1-1【平成25年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの実施と内容の検討 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%	1	【平成25年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 <看護学部> ○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの実施と内容の検討 「ホリスティック人間論」90人、「東洋医学概論」77人、「東洋看護学演習」(北京中医薬大学教員)32人が受講した。 担当教員と協議の結果、「東洋医学概論」における導入部分と、演習グループの組み方の工夫を次年度行うことにした。「東洋看護学演習」においては、北京中医薬大学で協議を行い、講義・演習内容の意見交換を行った。次年度のスケジュール、講義内容の確定も行った。 ○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上 98.2%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
理の涵養を強化する。さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。	<p>1【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 :実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 :事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 :事前事後指導科目 C以上80%</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催 ○実習指導体制の実施を継続する。 ・臨床教授等の称号付与の実施及び検討 ・実習打ち合わせの充実を検討 ○看護基本技術習得支援の実施と項目の検討 ○実習の事前事後指導充実の検討</p> <p>＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学科における実習指導の充実 ・教育実習の事前・事後指導の内容について検討 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・社会福祉養成における事前事後指導において、4名の非常勤等教員に事前指導に加わってもらうよう検討・実施する ・社会福祉士養成における実習報告会の進め方を改正し、指定施設の実習指導者に参加いただくよう検討・実施する ・社会福祉士養成における事前指導において、外部講師による講話の時期について早めるよう検討・実施する ○人間形成学科における実習指導の充実 ・実習の種類(保育所・施設、幼稚園)毎の問題点の検討</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 :実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 :事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 :事前事後指導科目 C以上80%</p>	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、1回開催 ○実習指導体制の実施を継続する ・臨床教授等の称号付与の実施(101人:新規40人,継続61人) ・実習打ち合わせの充実を検討(田川市立病院,社会保健田川病院等実習施設と新カリキュラムについて協議)。 ○看護基本技術習得支援の実施 (卒業生へ技術習得状況調査実施中、2回目終了) ○実習の事前事後指導充実の検討(新カリキュラム検討委員会において、実習前の実践論カリキュラムについて検討:新カリキュラム検討委員会にて)</p> <p>＜人間社会学部＞ ○公共社会学科における実習指導の充実 ・学生ひとりひとりが教育実習を円滑に行えるよう、教育実習事前・事後指導を強化した。事前指導では、中学校・高校の教科内容に即して学習指導要領の理解を深め、その理解をもとに実際の授業時間の設定内で授業案、板書計画、資料づくりを行い、各学生の授業内容に沿った模擬授業を行った。模擬授業後は学生の相互評価を交えて授業研究の指導を行った。また、事後指導では、3年生も参加して反省会を設けた。3年生(次年度の実習生)は反省会に参加することにより、4年生の経験を共有し、教育実習への認識を高めることができた。 ※新たな取組として、4年間の教職課程の学習を体系的に認識し、各学年で取得すべき科目や能力を理解して学習できるよう、「教職課程履修ガイド」を作成した。 ○社会福祉学科における実習指導の充実 ・社会福祉士養成における実習の事前指導に、指導者講習会を受けた有資格者である3人の非常勤教員に加わってもらい、グループ別指導を行った。 ・事前の説明会において実習報告会の進め方を改正し、一日で集中開催し、実習指導者に15名参加頂いた。 ・事前指導(2年)の外部講師による講話を2年後期から2年前期に早めて実施した。 ○人間形成学科における実習指導の充実 ・保育所実習、施設実習及び幼稚園実習の時期と日数について検討し、時期は授業との関係で変更が難しいこと、日数は他の養成校と同じままにする必要があることを確認した。 また、「保育実習Ⅰ」「保育実習指導Ⅰ」の担当者と、後期から開設の「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」等の各担当者が今後もより緊密に連携して学生を指導していくことを確認した。 引き続き実習担当者間の協議を継続中。なお、3・4年生実習に関する合同授業(前期に2回実施)に加え、2～4年生の合同授業計画を計画中であり、学生間の採用試験における実技試験等の情報共有化を計画中である。 ※新たな取組として、子どもコース学生交流会(実習報告・就職対策)を企画し、実施した。</p> <p>○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 :実習指導者連絡会議開催 年1回開催 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 :事前事後指導科目 3以上 100% ・学生の成績 :事前事後指導科目 C以上 94.0%</p>	A	<p>【高く評価する点】 ・新たな取組として、「教職課程履修ガイド」の作成や子どもコース学生交流会を企画・実施したことにより、学生の理解が進み、意欲を喚起することができた。 ・すべての事前事後指導科目で、3以上を上回る事ができた。また、学生の成績も目標を上回った。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		5

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1	<p>1【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】</p> <p>①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。</p> <p>②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。</p> <p>③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。</p> <p>④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】</p> <p>○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘して行う「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」4講義を実施した。 「子どもと関わる時」(10/10、119人)、 「薬害裁判で学んだこと」(10/30、149人)、 「地域のあらゆる課題に寄り添うコミュニティワーカーの仕事」(11/20、48人)、 「医療現場における倫理 ～患者の人権と医療従事者の役割～」(11/27、74人)</p> <p>○「社会貢献論」(受講者:183人)、「不登校・ひきこもり援助論」(受講者:151人)、「不登校・ひきこもり援助応用演習」(受講者:7人)を実施した。</p> <p>○「海外語学実習事前指導」(受講者:25人)を実施した。</p> <p>○社会貢献論演習における成果を社会貢献フォーラムで発表した(1/28、参加者:学生28人、教職員14人)。</p> <p>○公開卒論発表会(人間社会学部)を実施した(2/4、学外参加者14人)。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 :97.9%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		6
	<p>1【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞</p> <p>①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていくため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。</p> <p>○達成目標 ・充足率 (入学者数)/(入学定員) :100%</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞</p> <p>○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討</p> <p>地域教育支援専攻 ・カリキュラムの充実に向け、専攻のあり方を協議する。 ・授業科目間の連携に向けた協議を行う。</p> <p>心理臨床専攻 ・24年度に実施されたニーズ調査の結果(臨床心理実習(学内)における事例検討会に関する運営方法の検討、外部実習時間の充実についての検討)及び資格認定協会の実地視察の結果を踏まえて改善点を検討する。</p> <p>社会福祉専攻 ・「地域福祉演習」を開講する。 ・「ソーシャルワーク研究」「ソーシャルワーク演習」を実施する。</p> <p>○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 地域教育支援専攻 :100%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 社会福祉、地域教育領域の大学院進学希望者の多くが社会人であり、仕事との両立という点で、交通の便における本学のハンデが入学者数達成の障害となっていると思われる。博多駅サテライトの利用、夜間・休日の開講等について検討する必要がある。</p>		7

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1	<p>1【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築</p> <p>○達成目標 ・充足率（入学者数）／（入学定員）：100%</p>	<p>1-1【平成25年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実 ・精神看護専門看護師コース開講 ・26単位の精神看護専門看護師コースの学生の募集停止。38単位の精神看護専門看護師コースの申請準備。 ・老年看護専門看護師コースの認定審査申請 ・がん看護専門看護師コースの充実(継続) ・助産学コースの設置申請書作成</p> <p>○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成(継続) ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・eラーニングクラウド参加継続 ・eラーニングクラウド開講科目受講(1科目以上／学生1人) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加</p> <p>○達成目標 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催(5回以上) ・充足率(入学者数)/(入学定員):100%</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実 ・精神看護専門看護師コース開講 WG及び部会において検討を重ね、コース認定申請に向けての準備を行った。</p> <p>・26単位の精神看護専門看護師コースの学生の募集停止。38単位の精神看護専門看護師コースの申請準備 WG及び部会において検討を重ね、申請へ向けての準備を行った。</p> <p>・老年看護専門看護師コースの認定審査申請 当初、25年度の申請に向けて準備を行っていたが、看護系大学協議会の認定結果の通知が平成26年2月となることが分かり、再度検討の結果、26年度に認定審査申請を行うこととした。</p> <p>・がん看護専門看護師コースの充実(継続) 臨地実習施設と協議を重ね、実習に関する申し合わせやルール作りを実施。</p> <p>学会での学生の研究発表を実施した(看護科学学会、12月、大阪)。 ・助産学コースの設置申請書作成 助産学の3つのコースのカリキュラム(案)を作成し、申請準備を行った。</p> <p>○現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成(継続) 研究協力(研究指導他):6件、研究評議委員1件 セミナー・研修会などの講師:24件 実技研修及び支援:3件 マザークラス運営実践指導:5回/年 CNS実践研修(老年)12回/年 看護協会研修(他県含む):4件 勉強会:がん看護勉強会5回/年、がん看護セミナー1回/年 その他:1件</p> <p>○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・eラーニングクラウド参加継続:継続中 ・eラーニングクラウド開講科目受講(1科目以上／学生1人):9科目/3人(受講者) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加: テレビ会議2回、合同合宿研修参加(教員1人、学生3人) 2月の第5回九州がんプロ養成基盤推進協議会での研究課題報告会で学生が研究報告を行った</p> <p>○目標実績 ・専門看護師教育課程増設準備ワーキンググループ会議の開催:10回(集合会議5回、メール会議5回) ・充足率:50%:(6/12)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 昨年度(33.3%(4/12人))からは上がったものの本年度も50%(6/12人)にとどまった。平成27年度予定の助産学コースの開設を機に、定員充足に向けた取組を進める。</p>	No.1 「②入学者選抜試験(大学院)」	8

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
1	<p>1【他大学との連携による教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部> <p>①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。</p> <p>②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上/年 ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 1回/年 :テレビ会議 2回以上/年 	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【他大学との連携による教育の充実】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○公共社会学科、人間形成学科、社会福祉学科の専門領域に応じた他大学との連携の方向性を検討 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・NPO化に向けて検討する。 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを更新し、ニュースレターを発行する。 ・外部評価委員会による事業評価を実施する。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア像確立講義を試験的に実施する。 ・ナーシングキャリアカフェを開催する。 ・使命感尺度の開発のための聞き取り調査を実施する。 ○単位互換を担当する統一コード化部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・連携大学での国際協力看護領域及び災害看護領域における講義の相互受講を試験的に実施する。 ・キャリア像確立講義及び特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるようコンテンツ化する。 ・新規付加価値コース授業群を検討する。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を試験的に実施する。 ・連携大学で実施している海外研修授業の視察を行う。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を検討する。 ・大学連携・単位互換に関して、オレゴン看護教員コンソーシアムへの視察を行う。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 2回/年 :テレビ会議 2回以上/年 	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【他大学との連携による教育の充実】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> 公共社会学科、人間形成学科、社会福祉学科の専門領域に応じた他大学との連携の方向性については、地域力を生む自律的職業人育成プロジェクトを九州・沖縄23大学と連携し、推進した。「インターンシップの高度化」案を決定した。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・NPO化に向け、コンソーシアム会議にて検討した。 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を計3回開催した。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育「しなやかな使命感養成プロジェクト」連携運営協議会を計6回開催した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを随時更新し、ニュースレターを計2回発行した。 ・外部評価委員会による事業評価については委員の日程調整の都合で、平成26年4月に実施した。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を計8回開催し、事業計画の検討・修正を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア像確立講義を試験的に計6回実施した。 ・ナーシングキャリアカフェを計24回開催した。 ・使命感尺度の開発のための聞き取り調査を実施した。全連携校で実施が済み、対象者は15人であった。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査を2月に実施した。 ○単位互換を担当する統一コード化部会を計7回開催し、事業計画の検討・修正を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・連携大学での国際協力看護領域及び災害看護領域における講義の相互受講を試験的に12/18に実施した。 ・キャリア像確立講義及び特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるようコンテンツ化した。計7回の講義をコンテンツ化した。 ・新規付加価値コース授業群を検討した。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を計6回を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を2回実施した。 ・連携大学で実施している海外研修授業の視察を計2回行った。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を検討した。 ・大学連携・単位互換に関して、オレゴン看護教員コンソーシアムへの視察を行ったが、悪天候のため一部は中止となった。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数 :2科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 3回 :テレビ会議 2回 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		9

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>1【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。</p> <p>○数値目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上</p>	<p>1-1【平成25年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケート内容の検討を行い、アンケートを実施する。 ・就職先アンケートを継続的に実施する。 ・就職先アンケートの結果を分析し、来年度の実施に向けて結果を反映させる(アンケート項目の修正や拡充)。 ・各学科及びキャリアサポートセンター間でキャリア支援に関する情報を共有するとともに、効率的な役割分担を進める。 ・卒業予定者の就職活動状況を把握するアンケートを早期に実施する。 その結果に基づきキャリアサポートセンター等と連携して学生への情報提供や個別指導を行う。 ○アウトカム評価システム(案)を策定する。</p> <p>＜看護学部＞ ○就職先アンケート等により教育ニーズを把握するとともにきめ細かな国家試験対策を行う。 ・国家試験不合格者に対して、定期的に(6月・11月)連絡をとり、状況を把握し、個々に応じた支援を行う。 ・就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握する。 ・ゼミ担当教員と連携し、病院・施設の情報提供や就職相談を実施する。 ・国家試験対策として、定期模試の実施と結果を把握し、強化すべき領域の補講、全体・個別に実施する(保健師領域は補講時間を増加)。 ・成績低迷者向けの強化プログラムを実施する。 ・ゼミ担当教員と連携し、精神面でのサポートを行う。</p> <p>○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上</p>	<p>1</p>	<p>【平成25年度の実施状況】 【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞ ○就職先アンケートを実施した。 ・平成22年3月～平成24年3月の卒業生の就職先に対してアンケートを実施した。(平成26年3月、郵送数226)</p> <p>・キャリアサポートセンターの利用状況についてとりまとめ、各学科にデータを提供し、学生の就職活動に関する情報の共有を図った。 ・卒業予定者の就職活動状況の把握は、各学科でアンケートや面談を行い、その結果に基づき個別指導を行った。 ○アウトカム評価システム案を作成した。</p> <p>＜看護学部＞ ○就職先アンケート等により教育ニーズを把握するとともにきめ細かな国家試験対策を行う。 ・国家試験不合格および前期卒業生と連絡を取り、受験希望8人の受験手続等を実施した。 ・就職先を含めた、101施設に対してアンケート調査を実施した。教育ニーズとして、職員採用要件の上位3つおよび、学生時代に養ってほしい能力について回答を得、結果を教員、学生にアナウンスした。 ・学生の就職状況について、ゼミ担当教員と連携し進めるとともに、病院・施設からの情報は掲示場所に提供し、さらに教員及び学生に向けてメールで発信した。 ・国家試験対策として看護師模試6回、保健師模試4回、助産師模試3回を実施した。結果を受けて、看護師・保健師国家試験対策(補講)をそれぞれ3日間実施した。 ・模試の成績低迷者向けの強化プログラムをeラーニングで実施。並行して、看護師国家試験過去問小テストおよびやり直しを求め、個別指導も合わせて実施した。 ・ゼミ担当教員と連携し、個別に学生への精神面でのサポートを行った。</p> <p>○目標実績 ・アンケート内容の見直し：1回(項目及び内容を一部変更) ・就職率(就職者数/就職希望者)：98.0% (人間社会97.4%、看護98.9%)</p> <p>・国家試験合格率 看護師：97.6% 保健師：93.9% 助産師：100% 社会福祉士：70.6% 精神保健福祉士：100%</p>	<p>B</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」</p>	<p>11</p>

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 ：教員間の授業参観を実施 年1回以上	1-1	1	【平成25年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観システムのフォーム作成と試行 ○公開授業の方法や効果的な実施に向けた課題の整理及び試行 ○達成目標 ・FD研修会等教員参加率：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システム：人間社会学部での試行 年1回以上	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.10 「FD」	12
		1-1		【平成25年度の実施状況】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催(各専攻1回以上) ・学外の講師によるFDセミナーの開催(1回) ・学外で開催されるFDセミナーへの参加(2回以上) ・学内の講師によるFDセミナーの開催(1回) ・大学院生へのアンケート実施(1回) カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催(1回) ・大学院生参画FD会議において策定した提案について関係機関への回答依頼 ・FD活動の整理と記録 ○達成目標 ・大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員：95% ・大学院生の満足度：「中」以上：75%				

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1	<p>1【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 <人間社会学部><看護学部></p> <p>①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。</p> <p>○達成目標 ・臨床との共同研究数：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数：年に1回以上</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】 <人間社会学部> ○他大学との合同研修会などの検討 ・社会福祉士養成校協会の九州ブロック役員校運営委員会(9/29)で研修計画について検討し、九州ブロック研修会「認定社会福祉士養成について」を開催した(11/17)。 九州ブロック研究大会に参加した(2/25)。</p> <p>○ブラッシュアップセミナーH26年度開講のため、実習の事前説明会の機会を活用してセミナーを開催することを検討した。</p> <p><看護学部> ○臨床と教育研究との連携を図り以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施(地域、小児、女性、老年、在宅、学校保健6領域で実施) ・教員と臨床教授等の合同講習会(9/20実施 69人) ・実習に関する他大学との研修会(地域看護、女性看護、老年看護で実施)</p> <p>○達成目標 <看護学部> ・臨床との共同研究を実施:6件</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		14

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
5	<p>優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。</p>	1	1-1	<p>【平成25年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行う。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析を行う。 ・人間社会学部の改革に伴い、アドミッションポリシーの変更を検討する。 ・人間社会学部の改革に伴い、入試選抜方式の見直しを検討する。 ・今後の高大連携事業について、ニーズ調査や高校との意見交換を行う。</p> <p><大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保について改めて検討する。 ○大学院入試説明会の実施</p> <p>○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 社会福祉学科 6.0倍以上 人間形成学科 7.5倍以上 看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、 良好評価75%以上</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するために、以下の取組を行った。 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について、試行的に分析を行い、個人情報保護上の問題等、今後の課題を確認した。 ・人間社会学部の改革に伴うアドミッションポリシーの変更並びに入試選抜方式の見直しの検討については、改革案完成が年度末となったため、次年度以降に検討を行うこととした。 ・今後の高大連携事業について、ニーズ調査や高校との意見交換を行い、報告書を作成した。</p> <p>○特記事項 ・公共社会学科の募集人員について、変更する検討を開始した。</p> <p><大学院> ○大学院入試部会を7回開催し、現状分析と、アドミッションポリシーの見直しを行った。現状は、臨床心理士資格取得につながり、学部からの進学者が中心となる心理臨床専攻の志願者が多い。社会人の志願者が中心となる専攻は志願者が少ない。 ○大学院入試説明会の実施:人間社会学研究科では学部学生を対象に、看護学研究科では臨床指導会の際に実施した。オープンキャンパス(夏、秋)でも実施した。</p> <p>○目標実績 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共社会学科4.0倍 社会福祉学科4.8倍 人間形成学科9.6倍 看護学科5.1倍 ・両学部における辞退率:24.8% ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 66.7%(18/27) ・出前講義及びアンケート:回数26回 良好評価 98.9%</p>	B	<p>【高く評価する点】 <学部> 【実施(達成)できなかった点】 <学部> ・一般入試の志願倍率(公共社会学科、社会福祉学科、看護学科) 次年度以降、広報戦略の見直しや人間社会学部の改革により、目標達成を目指す。 <大学院> ・充足率 人間社会学研究科においては、進学希望者の多くが社会人であり、交通の便における本学のハンデが障害となっていると思われることから、博多駅サテライトの利用、夜間・休日の開講等について検討する。 看護学研究科においては、平成27年度予定の助産学コースの開設を機に、定員充足に向けた取組を進める。</p>	No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」	15

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1	<p>1【積極的な広報活動】</p> <p>①大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ②入試説明会の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ③オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ④ホームページの入試ページの更新、内容の工夫をする。 ⑤大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捕らえて、パンフレット配布等のPRを行う。</p> <p>○達成目標 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1000名以上、良好評価75%以上 ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価75%以上</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【積極的な広報活動】</p> <p>○広報活動改善の検討 ・現在行っている情報提供(入試説明会、高校訪問、出前講義、オープンキャンパス、大学案内配布)はそれぞれ満足度が高いので、それを継続しつつ、内容を充実した。 ・受験生が最終的に本学受験を決意するセンター試験の時期の情報提供を検討した。また福岡県外の高校への情報提供及び本学受験を希望する個人への情報提供(例:ニュースレター)を検討した。</p> <p>○広報活動等の実施・修正 ・大学紹介パンフレットの発行を6月初旬に早めた。 ・入試広報活動手許資料を5月に作成し、入試説明会等での広報活動に役立てた。 ・夏のオープンキャンパス時に高校教員向けの説明会を実施した。 ・夏のオープンキャンパスでアンケートを実施し、内容を精査した。 ・ホームページの入試情報の内容を精査し更新を早めた。加えて出前講義情報を更新した。 ・大学祭等で来訪者へパンフレットを配布した。</p> <p>○目標実績 ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート 参加者数 1,702人(夏1,563人、秋139人)、良好評価 96.3% ・入試説明会参加者数及びアンケート 11会場(172人参加)、良好評価 98.7% ・訪問高校数及びアンケート 37校(1,103人参加)、良好評価 96.6%</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試広報活動手許資料を作成した。 ・オープンキャンパスの参加者が目標の170%に達した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.3 「高校訪問」</p> <p>No.4 「入試説明会」</p> <p>No.5 「出前講義」</p> <p>No.6 「オープンキャンパス」</p>	16

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施 : 表彰の実施(年1回)	1-1	2	【平成25年度の実施状況】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生のキャリア形成支援 ・キャリアサポートセンターの個別相談機能の強化として、4人の外部カウンセラーと学生支援班で事例検討会を実施した(2回開催)。 ・教職員間の情報の共有化を図り、学生一人ひとりに対応したきめ細かなキャリア形成支援を行った。キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めるため進路・就職委員会を発足し、その下に3つの小部会を設置、「一般法人・公務員(行政)小部会」、「国試・公務員(保育・福祉)・進学等小部会」、を各1回、「看護学部小部会」を12回開催した。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みについて、学生支援班と就業力向上支援室で情報を共有し、H26年度実施に向け検討した。 ○プレ・インターンシップからインターンシップを55%(11名)が体験した。グループディスカッション、ポスターセッションを取入れた学修を実施し課題発見、学習意欲を深めた。 ○マイキャリアポケット(社会貢献+H30活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定を正規の授業として実施した。(受講者:31人) ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過について調査 就職希望で未就職のまま卒業した学生に対し、学生支援班から既卒者向けの求人情報や就職に向けたインターンシップの案内などをメール等で情報提供した。その結果、3人就職し、今後 も継続した取組を行う。また、キャリアサポートセンターで既卒者向けの求人コーナーを設置し、既卒者支援の充実を図っている。 ○優秀学生の表彰制度は学位授与式で実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援は継続して実施した。 ○目標実績 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 100.0%(インターンシップ受け入れ先17企業・団体からの学生評価結果) ：良好評価 100.0%(プレ・インターンシップ学生評価結果) ・キャリア形成支援講座参加者アンケート : 良好評価 98.7% ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率 100% ・表彰制度の実施 : 表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 : 利用者実数:261人、延べ1,102件	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17	

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	1【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議 2回以上/年	1-1【平成25年度計画】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制づくり ・ケアリングSNSを活用した学生交流の促進 ○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年、学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議年2回	1	【平成25年度の実施状況】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ・学生コンソーシアムを支援する教員の体制は構築した。 ・ケアリングSNSを活用した学生交流の促進は随時実施した。 ○学生コンソーシアム会議は計13回開催した。 ○学生フェスティバルを11/9に聖マリア学院大学の学園祭に合わせて開催した。 ○目標実績 ・学生フェスティバルの開催 :1回/年、学生参加数5人 ・学生コンソーシアム会議の開催 :対面会議年13回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・学生フェスティバルの開催日が、会場となった大学の都合により、福岡県立大学の学園祭と重複してしまったために、県立大学からの参加学生数が5名に留まった。 県立大学園祭との重複を受け、博多でおこなわれる学生対面会議を予定の2回から13回に開催を増やし、県立大学生が、学生フェスティバルの企画運営に関して積極的に関与することを可能とした(延べ18人企画運営の会議に参加した)。		18
	1【大学院生支援の充実】 ①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えるとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上/年	1-1【平成25年度計画】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・社会人を含む院生の実態を踏まえ、相談体制を改善する。 ＜心理臨床専攻＞ ・H24年度実施したアンケート(実習に伴う交通費の支援、心理検査用具の充実、その他)の結果を踏まえ改善点を検討する。 ＜社会福祉専攻＞ ・現在、各担当教員は学生のニーズや希望する開講・相談時間について合わせられるように調整している。今後も継続して取り組んでいく。 ＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。 ○研究助成金制度の検討 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ○国内学会参加費補助金制度の検討	1	【平成25年度の実施状況】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜地域教育支援専攻＞ ・社会人を含む院生の実態を把握し、特別研究担当教員等が大学院生の学生生活に係る問題の相談に対応できる相談体制を整備した。 ＜心理臨床専攻＞ ・実習に伴う交通費の支援については後援会支援の周知を行った。 遊戯療法のための玩具及び心理検査用具について学生の意見を集約し、玩具および検査用具を充実させた。 ＜社会福祉専攻＞ ・各担当教員ごとに、他の職務の許す範囲で学生のニーズ、希望開講・相談時間に対応した。 ＜看護学研究科＞ ・学習環境・連絡体制・個別問題等、昨年度整えた体制の課題点について情報をもとに検討し、改善を図った。 ○研究助成金制度については、情報収集をもとに検討を行った。 ○卒業生の大学院入学金減免措置については、情報収集をもとに実施に向けた検討を行った。 看護学研究科においては、県外卒業生の減免措置について検討を行った。 ○国内学会参加費補助金制度については、情報収集をもとに検討を行った。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		19

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率：70%以上(平成26年度以降)	1-1【平成25年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討。 ・教員向け講習会の実施 ○eラーニングシステムの改善の検討 ○コース開設数調査の実施 数値目標 90コース開設 ○学生の利用率調査の実施 ・学生利用率の達成目標を前倒しで設定 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：90コース ・学生の利用率：70%以上	1	【平成25年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの教育効果を上げるための活用方法を検討 ・教員向け講習会を3回実施した。 「eラーニングシステム研修会」(7/31:参加者28名、10/2:参加者25名)。 アンケート評価(役立った)100% 「eラーニングの展開－佐賀大学の事例より－」(11/27:参加者42人(職員含む)) ○eラーニングシステムの改善の検討 ・eラーニングシステム使用に関するアンケートを学生(両学部1年生)に実施。結果を踏まえ、掲示板の削除方法を改良。アンケート集計のシステムの改変の希望については、検討を行っていく。 ○コース開設数調査の実施 前期:51コース(他に学外2コース)、後期:41コース(他に学外1コース)、全体で92コース(他に学外3コース)を開設した。 ○学生の利用率調査の実施 ・利用率調査 通年：全体845名(82.3%)、人間社会学部522名(77%)、看護学部323名(93%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数:92コース(他に学外3コース) ・学生利用率: 通年：全体845名(82.3%)、人間社会学部522名(77%)、看護学部323名(93%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20
	1【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度：参加した社会人のアンケート調査における良好評価 70%以上	1-1【平成25年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○ホームページの大学院のトップページに「社会人が学びやすい学習環境の整備」の項目を追加し、平成24年度に決定した内容を掲載する ○博多サテライト教室の利用科目数の実態把握 ○博多サテライト教室での授業参加者(学生と本学の教員)を対象にした満足度調査 ○e-learningでのレポート提出とコメントのフィードバックの実施科目数の実態把握 ○図書館のデータベースの学外からの利用者数(アクセス数)の実態把握 ○達成目標 ・博多サテライト教室での授業参加者の全体満足度:普通以上70%	1	【平成25年度の実施状況】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○ホームページの大学院のトップページに「社会人が学びやすい学習環境の整備」の項目を追加し、平成24年度に決定した内容を掲載した。 ○博多サテライト教室の利用科目数の実態把握を行った。 ○博多サテライト教室での授業参加者(学生と本学の教員)を対象にした満足度調査を実施した。 ○e-learningでのレポート提出とコメントのフィードバックの実施科目数の実態把握を行った。 ○図書館のデータベースの学外からの利用者数(アクセス数)の実態把握を行った。 ○達成目標 ・博多サテライト教室での授業参加者の全体満足度:普通以上75%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>1【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】</p> <p>①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入</p> <p>②ラーニング commons の設置</p> <p>③平日の開館時間延長・土日開館の実施</p> <p>○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 ・新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上</p>	<p>1-1【平成25年度計画】</p> <p>【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】</p> <p>○機関リポジトリ導入に向けての準備</p> <p>○ラーニング commons 設置(案)の作成</p> <p>○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施</p> <p>○達成目標 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】</p> <p>○機関リポジトリ導入に向けての準備 活発に取り組んでいる大学の視察を行い、その結果から導入の検討を行った。次年度導入を決定した。</p> <p>○ラーニング commons 設置(案)の作成 ラーニング commons 設置(案)作成のため、先進的取組を行っている図書館を視察した。本館・分館それぞれのラーニング commons (案)を検討した結果、分館設置に決定した。決定を受け、学生の意向調査を行い、具体案を作成して部局長会議、教授会に提案、3月に竣工した。</p> <p>○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 予定どおり実施した。</p> <p>○達成目標 ・開館延長時間内の利用者数 : 月205名</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>ラーニング commons は、学生アンケートの結果ニーズが高かったため、年度を繰り上げて設置した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.11 「図書館」	22
<p>8人間社会学部の改革</p> <p>人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目標に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。</p>	<p>1【改革案の検討・作成】</p> <p>①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。</p> <p>②労働市場や学生のニーズ等を調査する。</p> <p>③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。</p> <p>○達成目標 ・改革案の作成 : 平成25年度までに作成</p>	<p>1-1【平成25年度計画】</p> <p>【改革案の検討・作成】</p> <p>○改革案を作成する。</p> <p>○達成目標 ・改革案の作成 : 平成25年度中に作成</p>	2	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【改革案の検討・作成】</p> <p>○改革案を作成し、学事課に人間社会学部将来構想を提出した。 ・第482回教授会において、プロジェクト会議において昨年度より検討を重ねてきた人間社会学部将来構想を理事長に提出することが報告された。(10/9)</p> <p>・上記将来構想を基に、理事長の下に設置された人間社会学部改革推進検討部会で検討を加えた上で、第497回教授会に提案された。(3/3)</p> <p>・第499回教授会において人間社会学部将来構想案として承認された。(3/17)</p> <p>・県学事課に人間社会学部将来構想(案)を提出、説明を行った。(3/28)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		23

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科統が連携した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1【平成25年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・平成24年度に作成した設置構想案に基づき、関係者と協議の上、新設案を作成する。 ・博士課程担当可能な教員と授業科目を検討する。	1	【平成25年度の実施状況】 ・平成24年度に作成した設置構想案に基づき、関係者と協議の上、新設案を作成する会議を開催したが、人間社会学部改革および修士課程の状況を鑑み、引き続き具体的な新設案を作成するための検討を継続することとした。 ・博士課程担当可能な教員と授業科目については、教員退職の影響を受け、新たな構想案に沿った視点から引き続き検討することにした。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
		ウェイト総計	25年度 26			項目数計		25年度 24

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項(平成25年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 2 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
--------------	---

項目	実施事項	平成25年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学術的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等)	1-1【平成25年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを把握し、内容を調査・検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討し、他大学を調査する。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努める。 ○協定校(大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、南京師範大学、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するための学内分担任や戦略について検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のため、シンポジウムを開催する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :1回 ・産学官連携契約件数 :2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 :1回 ・メールマガジンの発行 :12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 :2件以上 招聘件数 :2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 :3件以上 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :1回発刊 ・学術的共同研究シンポジウム開催 :1回	2	【平成25年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトについて、学際的研究の可能性を探るため、教員や学外機関にヒアリングを行った。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発信する方法について検討し、大学での関係学会などで資料収集やヒアリングを行った。 ○附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携の推進のための学内広報を行った。 ○協定校(大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、南京師範大学、コンケン大学)及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進するため、学術交流部会と協議を行った。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学術的共同研究活性化のためのシンポジウム開催に向け、韓国、中国、タイの研究者と協議を行い(7/26、27)、県立大学と共に歩む会と共催シンポジウムを行い、学長が基調講演を行った。 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数 :4件 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :2回 ・産学官連携契約件数 :2件(継続分) ・知的財産セミナーの開催 :1回 ・メールマガジンの発行 :17回 ・研究シーズの発表 発表会への参加 :2回 参加者のべ4回 飯塚研究開発機構など個別折衝 :7回 参加者のべ15名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 :34件 :看護学部年間 :40件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 :7件 :看護学部年間 :6件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 :2件 招聘件数 :5件 ・提携協定校との共同研究応募件数 :2件 ・学術的共同研究シンポジウム開催 :1回(7/28)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 論文数(査読付き、学術掲載文)について、人間社会学部は34件と目標に届かなかったが、前年度21件と比較すると伸びている。平成26年度からは、人間社会学部紀要にも看護学部紀要と同様に査読制度が導入されることになっているので、論文数は増加することが期待される。 学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分)については、両学部ともに目標に満たなかった。今後は、招待・招聘を主として受けるべき立場にある教授・准教授の研究成果発信および研究費の外部競争的資金獲得に力をいれるべく、意識改革を進めていくことにする。	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」	25

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
	<ul style="list-style-type: none"> 論文数(査読付き、学術掲載文) <ul style="list-style-type: none"> :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) <ul style="list-style-type: none"> :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 提携協定校との共同研究数・招聘件数 <ul style="list-style-type: none"> :共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 提携協定校との共同研究の応募状況 <ul style="list-style-type: none"> :共同研究応募件数 3件以上/年 								
1	<p>【外部研究資金の獲得の推進】</p> <p>①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。</p> <p>②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募/獲得による教員評価システムの検討と実施</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金獲得件数、金額 <ul style="list-style-type: none"> :年間30件以上、年間4,000万円以上 科学研究費応募率 <ul style="list-style-type: none"> :80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く) 	1-1	<p>【平成25年度計画】</p> <p>【外部研究資金の獲得の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の具体的検討 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○未提出者から理由書の提出を求め、未提出理由を把握・分析すると共に応募の促進を図る。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 <ul style="list-style-type: none"> :年間30件、年間4,000万円以上 科学研究費応募率 <ul style="list-style-type: none"> :80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く) 	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【外部研究資金の獲得の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○早期かつ計画的取組により支援機能強化を図った。ホームページに外部資金の応募要項等を適宜掲載した。 ○フォロー策として科研費補助制度を創設し、不採択のA評価の教員の申請者に対し助成を行った。(100千円×3人) ○科研費応募率向上のための研修会を開催した。 ○未提出者の理由の把握について学部長が聞取を行った(人間社会学部)。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金(科研費)獲得件数、金額 :実積 30件、金額 57,589千円 科学研究費応募率 :94.3%(現在科研費による研究課題をもっているを除き、正当と認められる理由のある教員を更に除く) 	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>獲得金額が目標の143%、応募率が目標の117%に達し、それぞれ上回った。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.19 「研究」	26

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1	<p>1【研究倫理の徹底】</p> <p>①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。</p> <p>○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上</p>	<p>1-1【平成25年度計画】</p> <p>【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーに対する研修会参加の推進 ・学外者を含めた審査体制の検討(学外者に入ってもらふ審査の基準を決定する) ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取り組みを検討 ○若手研究に対するセミナー開催での倫理指針の徹底 ・セミナーを開催する。</p> <p>○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)年2回以上</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ・研究倫理委員会メンバーの1名が12月に東京女子医大で行われた研修会に参加した。 ・学外者を含めた審査体制については会議にて引き続き検討した。 ○動物実験に関する委員会(倫理審査含む)を計画通り2回開催した。 ○動物実験に関する実施ガイドラインの取り組みとして、動物実験に関する規定を作成した上、年度ごとの動物実験の実施報告書を作成した。 ○若手研究に対するセミナーを2/18に開催し、倫理指針の徹底を図った。</p> <p>○目標実績 ・学外での研修参加：年1人 ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回開催</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 ・学外者に入ってもらふ研究倫理審査の基準については、県立大学で申請が出される研究課題の先端性とパターンを考慮し、引き続き検討を重ねることとした。</p>		27
		ウェイト総計	25年度 4			項目数計		25年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項(平成25年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 3 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
----------------	---

項目	実施事項	平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年	1-1【平成25年度計画】 【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・北京中医薬大学学生の短期文化・学術交流研修の受入 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・田川市郡との包括的連携事業として継続的に取り組める文化交流プログラム(案)をH26年度実施に向け開発する。 ○国際交流センター(仮称)のH26年度開設に向けた構想案の作成 ・国際交流部会を中心とした国際交流に関する業務の一元化体制整備の検討(規程策定、役割機能の明確化、等) ○達成目標 ・教員交流数 :延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 :1回以上/年	1	【平成25年度の実施状況】 【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・北京中医薬大学学生の短期文化・学術交流研修は受け入れ側の都合により延期した。 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学との教員交流事業を実施した。 また、北京中医薬大学教員による本学看護学生への集中講義を実施した。 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・田川市郡との連携事業として継続的に取り組める文化交流プログラムとして、小学校の総合学習に留学生を派遣するプログラムを企画し、26年度開始のための調整・準備を行った。 この他、本年度は県立大学と共に歩む会との共催シンポジウム及び市民交流事業を実施した。 ○国際交流センター(仮称)のH26年度開設に向けた構想案の作成 ・国際交流センターの業務・組織体制について検討し、国際交流センター規程案を作成した。 ○目標実績 ・教員交流数 :延べ11人(本学から協定校へ5人、協定校から本学へ6人) ・文化交流プログラムの実施 :1回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		28
	1【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実:短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援:派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会 :年1回以上 ・受入留学生数 :30人以上(私費留学生を含む)/年	1-1【平成25年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 期間:3週間のコースを設定 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・短期語学研修に関する危機管理体制の構築 ○受入留学生の増加対策の実施 ・受入留学生のホストファミリー先確保の継続 ・受入留学生に対する更なる支援制度の整備 アンケート調査等で受入留学生支援体制の問題点を整理し体制の充実を図る。 ・受入留学生に対する日本語教育の充実 ○交流協定校への短期派遣留学生(長期休暇時1~2カ月派遣)の検討 ・奨学金制度の検討 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会 :年1回以上 ・受入留学生 :11名以上(私費留学生含む)	1	【平成25年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修は、参加希望者が催行人数に満たなかったため実施しなかった。 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)を実施した。(9/5~9/26、参加者:26人) ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策 ・英国語学研修に関し、契約関係の見直しを行い、責任体制を明確にした。危機管理の方針を決定し、マニュアルを作成した。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・受入留学生のホストファミリー先を確保した。 ・受入留学生に対する更なる支援制度の整備 小部会を通じて昨年度の聞取調査結果を検討するとともに、継続的にニーズの把握ができるよう、新受け入れ学生に対するアンケート(開始時と終了時)を実施することとした。 ・受入留学生に対する日本語の授業を増加させ日本語教育を充実させた。(平成24年度4科目を平成25年度から6科目とした) ・新たな協定締結校の開拓について、吉林大学珠海学院から12月に学長が来校予定であったが相手方都合により延期となった。 ○交流協定校への短期派遣留学生(長期休暇時1~2カ月派遣)の検討 ・大邱韓医大学校と短期留学プログラムについて検討を開始した。この他、外部の留学プログラム奨学金(受け入れおよび派遣)獲得に向けて、小部会で申請内容を見直し、申請書を作成した。 ○目標実績 ・留学を経験した学生の報告会:2回 ・受入留学生 :15人(私費留学生を含む)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		29

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	<p>1【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】</p> <p>①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。</p> <p>○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳 :平成27年度までに作成</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討に関しては、所有権保持者との協議を行い、日記の継続的読解について了解を得た。</p> <p>○英文翻訳作業の検討・実施に関しては、県立大学に所蔵されている絵画4点の中に記された日本語の説明文について、平成26年度に英文化を進めることとした。</p> <p>○目標実績 ・地域の方々との日記現代語訳作業会議の開催 :1回</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		30
2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	<p>1【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】</p> <p>①福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ②田川市郡との包括連携事業の推進 ③県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施</p> <p>○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年</p>	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【全学体制による地域課題解決のための連携取組の推進】</p> <p>○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ・福岡県・田川市郡との広域活性化事業に参加し、県広域地域振興課の「まるごと博物館」人材研修に協力した。 県の「田川まるごと博物館」「人材育成飛翔塾」に県立大学附属研究所を提供し、学長、副学長が講義を行った。 田川民俗芸能祭と田川まるごと博物館開館1周年記念フォーラム(3/21)を大学として後援。トークセッションに副学長が出演した。 ・福岡県飯塚研究開発機構と情報交換を行った。</p> <p>○田川市郡との包括連携事業の推進 ・田川市郡との包括連携協定を締結(5/2)した。 ・田川市との包括連携の継続実施(研究採択:3件) ・包括連携協議会の内容を点検した。</p> <p>○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 ・県立三大学による連携県民公開講座のテーマ、発表者、日程等を決定し、実施した。 「食べる・噛む・生きる」～食育で作る健康な心と体～(県立大:12/6開催 参加者:152人)</p> <p>○達成目標 ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 :4件/年 ・田川市郡との包括連携事業の推進 :3件/年(継続含む) ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討 :1企画/年</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.21 「産学官連携」	31

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1-1【平成25年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (生涯福祉研究センター) ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・お父さんお母さんの学習室の運営 ・「足と靴の相談室」の運営他2事業の実施 ○地域活動の強化 ・福祉の実践に関するセミナー他3事業の実施 ・ボランティア養成ワークショップ継続の是非について検討 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(隔月1回:6回以上) ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1	【平成25年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (生涯福祉研究センター) ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ・お父さんお母さんの学習室の運営 前期12回36人、後期12回36人 合計のべ72人参加 「足と靴の相談室」の運営 のべ26人参加 「おもちゃとしょかん・たがわ」 34回開館 来館者数のべ278人 直方市要保護児童対策協議会「ペアレントトレーニング・スキルアップ講座」の共催 5回開催、のべ99人参加 ○地域活動の強化 ・「福祉用具研究会」の開催 8回開催、のべ172人参加 「アンビシャス親子広場」のべ258組621人参加 「地域に住む外国人のための日本語教室」月2回開催 継続参加者数6名/回 「西日本国際福祉機器展」への参加:福祉用具研究会の活動をパネル展示「筑豊市民大学」への支援:公開講演会の準備、プログラムの作成協力 ・ボランティア養成ワークショップについては、担当者退職のため平成25年度は休止、平成26年度以降の事業継続の可能性について検討を行った。 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催 8回開催 のべ172人参加 参加者・相談者アンケート：良好評価90%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」	32
		1-1【平成25年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (ヘルスプロモーション実践研究センター) ①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施 毎週水曜日実施 年間300名 ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 年間6回 ○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化：高齢者宅訪問:年間 30件 ○個人技術 ・パパママは名医だぞ 年間 3回 ・保育看護学習会(保育士対象) 年間 6回 ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 年間 6回 ○健康大使制度の運用 継続実施 ②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 年間 4日 ○性の健康に関する事業(布ナプキン作成、マンスリーピクス、月経何でも相談、性教育) ○多職種協働がんセミナー 2ヶ所 ○達成目標 ・健康教室等:20件 ・参加者数:延べ 800名 ・参加者アンケート:良好評価 75%以上	1	【平成25年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (ヘルスプロモーション実践研究センター) ①健康教室の実施・修正 ○地域活動の強化 ・癒しの空間およびヒーリング講習会継続実施 毎週水曜日実施 44回(247人) ・世にも珍しいマザークラスinたがわ 健康教室(マザークラス田川) 6回(135人) 健康教室(水耕栽培システム作り) 32回(40人) 「癒しの空間」 32回(130人) 筑豊市民大学・看護ゼミ 10回(147人) ヒーリングワークショップ 7回(26人) ○支援的環境づくり ・地域住民と共に創造する筑豊の健康長寿文化：高齢者宅訪問:38回(69人) ○個人技術 ・子どもの健康見守り隊(パパママは名医だぞ) 17回(938人) ・保育看護学習会(保育士対象)7回(287人) ・世にも珍しいマザークラスinふくおか 6回(107人) ○健康大使制度の運用 継続教育 1回(30人) ②福祉・教育・健康の相談事業の検討 ○県立大学女性と子どものためのスペース「ら・どんな・まんま」 7回(8人) ○性の健康に関する事業(布ナプキン作成1回、マンスリーピクス6回、月経何でも相談24回、性教育出前講座10回) 41回 821人 ○在宅医療推進がんセミナー 2回(83人) ○目標実績 ・健康教室等:20件 ・参加者数:延べ 3,225名 ・参加者アンケート:良好評価 98.6%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	33

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-1 【平成25年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (不登校・ひきこもりサポートセンター) ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○達成目標 ・サポーター派遣人数:140名以上 ・教員対象研修回数:10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数:20名以上 ・登校開始率:37% ※ 登校開始率とは、…キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	1	【平成25年度の実施状況】 <不登校・ひきこもりサポートセンター> ○県大子どもサポーター派遣事業は実人数199人、延べ2,767人が活動した。 ○教員対象研修事業は68回の研修を5,467人に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は実人数32人、延べ1,328人が通級した。 「キャンパス・スクール・夏」では、実人数6人、延べ42人が通級した。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数:199人 ・教員対象研修回数:68回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数:32人(キャンパス・スクール・夏は6人) ・登校開始率:56%	A+	【高く評価する点】 「キャンパススクール・夏」事業を新たに開始し、キャンパススクール事業を拡大した。 また、下記の事業への参加を新たに始めた。 ・福岡県広域地域振興課主催 田川飛翔塾(6泊7日) ・福岡県広域地域振興課主催 修験の道プログラム(4泊5日) ・福岡県立英彦山青年の家主催 聴覚障害児キャンプ(2泊3日) ・大任町教育委員会主催 大任町通学合宿(5泊6日) ・福智町社会福祉協議会主催 障がい児夏期休暇サポート事業(2週間) ・田川市金川小中合同地区懇談会主催 心肺蘇生法(AED)講習会(於3公民館) 【実施(達成)できなかった点】	No.38 「不登校・ひきこもりサポーター」	34
		1-1 【平成25年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 (社会貢献・ボランティア支援センター) ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・学生の社会貢献・ボランティア活動を求める外部団体の情報を学生に提供する。 ・社会貢献・ボランティア活動を希望する学生の相談に応じ、学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートを行う。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・学内のボランティアサークルとの懇談会を開催する。 ・学生グループの活動の場(研修、会議、作業等)を提供する。 ・学生サークルの課題を把握し、自らが解決できるように支援する。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・地元商店街や地域の活性化、小・中学校の学習支援、防災等の課題に地域と連携して取り組む学生活動に対して地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行う。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・社会貢献・ボランティア活動に関する学習会や研修会を企画・実施する。 ・学生提案による研修会の実施を支援する。 ○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献フォーラムの開催 年1回		【平成25年度の実施状況】 <社会貢献・ボランティア支援センター> ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ・外部団体・機関の登録件数は131件となり、52件のボランティア依頼情報を学生に提供した。 ・個別相談を87回行い、延447人の学生が活動を行った。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ・学内のボランティアサークルとの懇談会を3回実施した。 ・延652人の学生が、合計94回「学生活動ルーム」を利用した。 ・9グループに対して、相談対応やアドバイス等の支援を行った。 ○地域と連携した学生活動の支援 ・8件の活動に対して、地域の関係団体との連絡調整、相談対応、アドバイス等の支援を行った。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ・「社会貢献フォーラム」など、社会貢献・ボランティア活動に関する研修会を4件(合計8回)実施した。また、正課授業「社会貢献論」、「社会貢献論演習」の運営支援を行った。 ・学生提案による研修会を4件実施した。 【「地域と連携した学生活動の支援」に関する新たな取組】 ・福岡県母子寡婦福祉連合会と連携し、地元商店街の交流拠点を活用したひとり親家庭の学習支援に取り組んだ。 (利用世帯数9世帯、利用児童数13人、活動参加学生数7人) ・福岡県と連携し、本学で「大学生災害ボランティアサポーター養成研修」を実施し、研修修了者を東日本大震災の被災地支援に派遣する取り組みを行った。 (全3回の研修参加学生数:延べ68人、被災地支援参加学生数:5人) ○目標実績 ・外部団体・機関登録数 131件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 447人(延べ) ・社会貢献フォーラムの開催 1回		【高く評価する点】 地元商店街の交流拠点を活用したひとり親家庭の学習支援や大学生災害ボランティアサポーター養成研修修了者の被災地派遣など、地域や行政と連携した新たな取り組みを開拓できた点 【実施(達成)できなかった点】		

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	<p>1【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】</p> <p>①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 :年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名 	1-1	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】</p> <p><生涯福祉研究センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域支援の充実 4件 <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育・スキルアッププログラム」5回開催 のべ63人参加 「NPO福祉用具ネット創立10周年記念シンポジウム」への協力 「福祉用具研究会」報告書『福岡県立大学福祉用具研究会15年間のあゆみ』を印刷・発行 「直方市立上頓野小学校教職員研修会ペアレントトレーニングスキルアップ講座」2回開催 のべ50人参加 「直方市教育委員会小中学校管理職研修会ペアレントトレーニングスキルアップ講座」60人参加 ○教育研修活動の実施 8件 <ul style="list-style-type: none"> ・「山本作兵衛さんを<読む>会」48回開催 のべ720人参加 「筑豊英語教員フォーラム」14回開催 のべ95人参加 「保健・医療・福祉職対象 足と靴の健康・実践講座」2日開催 のべ32人参加 「さわやかな表現塾」2日開催 のべ28名参加 「PCスキル養成講座」2回実施 :延べ6人参加 「福祉用具体験講習」1回実施 :延べ19人参加 「福祉用具体験講習2013—排泄ケアを考える—」の開催 16人参加 「直方市保育所連盟統合部会研修会」3回実施 のべ36人参加 「山本作兵衛さんを<読む>会」の実施・運営の再検討 ・外部の研究者を客員研究員として招へいし、継続して実施することを決定 ・リカレントセミナーの開催 「司法と福祉の『協働』—社会的排除に向き合うソーシャルワーカー」179人参加 <p><ヘルスプロモーション実践研究センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ○リカレント教育 <ul style="list-style-type: none"> ・身体感覚活性化<世にも珍しい>マザークラス医療者向けセミナーの開催 1回 助産師70名 ・母乳育児支援者のための20時間ベーシックコース 8回 看護師90名 ・福岡ヘルシー・エイジング研究会 6回 看護専門職73名 ○目標実績 <ul style="list-style-type: none"> 各ライセンス向けのリカレント実施数 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師対象リカレント教育 3事業 ・助産師対象リカレント教育 2事業 ・保健師対象リカレント教育 1事業 ・卒業生 10名参加 	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>直方市こども育成課と生涯福祉研究センターとの共催で、保育士や教師を対象にスキルアッププログラムを開催した。これまでの個別の取り組みが、地域の行政を動かすまで展開された点は高く評価される。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	36

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	<p>1【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】</p> <p>①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保管・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設</p> <p>○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催</p>	<p>1-1【平成25年度計画】</p> <p>【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】</p> <p>○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ・全国モデルとしての展開を各センター、調整部会で検討する。 ○公開講座の実施 ・公開講座を学内外に発信し、3講座を実施する。 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存及び公開 ・保存及び公開のための目録を作成する。 ・報道関係者の取材に協力し、活用・公開する。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ・関連研究分野の全国ネットワーク組織を調査・検討する。</p> <p>○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催</p>	1	<p>【平成25年度の実施状況】</p> <p>【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】</p> <p>○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ・月1回の附属研究所調整部会で各センターの取組を報告し、検討した。 ・全国の附属研究所、生涯福祉研究センターの再編動向の資料を収集した。 ○公開講座の実施 ・県立大学公開講座(3講座)を以下のように実施した。 公開講座Ⅰ「人間と社会について科学する」(全4回、延べ54名参加) 公開講座Ⅱ「女性の身体と心を感じる健康講座～自分の身体を自分で癒そう～」(全3回、延べ77名参加) 公開講座Ⅲ「ココロとカラダの貧困を考える」(全3回、延べ91名参加) ・福岡県立三大学連携県民公開講座「食べる・噛む・生きる～食育で作る健康な心と体～」を実施した。152名参加 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存及び公開 ・山本作兵衛コレクションの目録作成を検討し、分類項目を決定した。オープンキャンパス、神幸祭、秋興祭、議会視察を含め合計7日間公開展示した。 ・田川市からの研究助成を受け、山本作兵衛遺品のデータベース化を行い、報告書を作成した。 ・TBS系全国放送取材に日記を公開し、協力団体として福岡県立大学の名前が出された(7/15放送)。 ・RKB毎日放送のTV番組「坑道の記憶」(90分)で番組制作に協力し、協力団体として福岡県立大学の名前が出された(11/11福岡、佐賀、長崎県で放送)。 ・山本作兵衛事務所と5回の折衝を経て、日記(昭和25年～28年)を解読・研究する合意書を交わし、『研究叢書第13巻』を刊行(3/28)した。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ・附属研究所関連研究分野の全国ネットワークについては、研究会に参加した。 ユネスコ関係アーティスト個展成功報告会を共催し、成功した。</p> <p>○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年7回 ・公開講座の実施回数 :年4回開催(3大学連携分1回を含む)</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>・山本作兵衛コレクションが全国放送や国際アーカイブス講演で県立大学の業績として紹介された。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		37

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率：(志願者数/募集人員)：1.5倍以上 ・認定合格率：90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催：年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修会：年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催：年1回以上	1-1【平成25年度計画】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催：年4回以上 ・同窓生によるフォローアップ研修会：年1回以上 ・リクルートのためのリカレントセミナーの開催：年1回以上 ○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等に関する出前講義：年3回以上 ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応 ○積極的広報活動 ・ホームページの充実 ・健康教育活動の告知・募集の実施 ○達成目標 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数)1.5倍 ・認定審査合格率 90% ・患者教育研究会延べ参加者数 20名以上 ・セミナー参加者数 50名以上、参加者アンケート 良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育(出前講義) 開催回数3回以上、参加者アンケート 良好評価75%以上	1	【平成25年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ・福岡糖尿病患者教育研究会の開催(5回実施、参加者合計：40人) ・看護実践教育センター修了生対象フォローアップ研修会の実施(7/20、参加者数：36人) ・受験者リクルートのためのリカレントセミナー(第1回糖尿病看護実践力開発セミナー)の開催(7/21.参加者数：317人) ○糖尿病健康教育活動の実施 ・地域住民・企業等を対象に、糖尿病予防・療養等に関する出前講義 ・第56回日本糖尿病学会展示ブースにおけるミニレクチャー担当：(5/18、テーマ「糖尿病患者さんへの療養指導」) ・第8回九州・沖縄Active SMBG糖尿病セミナー演習ファシリテーター担当：7/7、テーマ「SMBGの有効活用」 ・秋興祭(大学祭)での健康教育ブース出展：11/9(参加者数54人) ・地域住民に対する糖尿病・生活習慣に関する健康相談：11/9(相談者数10人) ・医療・福祉・保健分野で働く人々からの糖尿病に関する相談対応：相談時に随時対応(相談者数5人) ○積極的広報活動 ・入学式・次年度入試情報を提供する等ホームページの充実策として随時更新を実施した。 ・セミナー開催時及び健康教育活動時、講義・相談対応などの告知を行った。 ・入試関連情報(ポスター)を福岡県内の病医院(200箇所)へ送付した。 ○目標実績 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数)：1.06倍 ・認定審査合格率：100%(平成25年度) ・患者教育研究会延べ参加者数 40人 ・セミナー参加者数317人、アンケート良好評価：95.3% ・糖尿病予防教育(出前講義等)：開催回数4回、参加者アンケート良好評価：90%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 入学試験志願倍率は目標に達しなかった。しかし、本センター以外の全ての糖尿病看護認定看護師教育機関で受験者数が定員数を満たしていなかった中で、定員以上の受験者数は確保できた。		38
		ウェイト総計	25年度 11			項目数計		25年度 11

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

社会貢献に関する特記事項(平成25年度)
なし

年度計画項目別評価

中期目標 4 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。
----------------	--

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。	1【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。 ○達成目標 ・プロパー職員の採用：平成27年度まで8名以上	1-1【平成25年度計画】 【事務局機能の強化】 ○事務機能強化に向けた専門性を要する部署へのプロパー職員の登用 ○異動に伴う引継等における各部署における業務マニュアルの統一的な様式での作成及び冊子化の検討 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修及び学内SD研修の実施 ○事務局情報のデータベースを踏まえ、事務局ファイル共有システムの的確な運用開始 ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防火訓練の充実 ○県立三大学の事務処理において、経費削減効果が見込める事務処理として「庶務システム」の導入可否の検討 ○達成目標 ・プロパー職員の採用：平成26年度2名採用	1	【平成25年度の実施状況】 【事務局機能の強化】 ○プロパー職員を3人新規採用し、経営企画班、総務財務班、教務入試班に配置した。 ○統一様式による業務マニュアルを作成した。 ○公立大学協会主催の職員セミナーに1名、会計セミナーに2名の新規採用プロパー職員を派遣した。 学内SD研修を11/6に、新規採用職員を対象とした研修を11/19に実施した。 事務局SDの一環として、プロパー職員全員に対し、担当業務について年度上半期の振り返りを踏まえた下半期の目標を提出させ、目的意識を持って業務に取り組むよう意識付けを行った。 ○共有ファイルシステムの運用を開始した。 ○防火訓練を学内及び学生寮において実施した。 消火訓練を充実(消火剤の出る消火器の取扱訓練を倍増)。 ○三大学の事務局で会議を開催し、庶務システムについて引き続き導入に向けた課題を整理していくこととした。 ○目標実績 ・プロパー職員の採用：平成26年度 2名採用	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		39
	1【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合:30%	1-1【平成25年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰制度委員会を設置し、Best Teacher's Awardを含む表彰制度を作る。 ・教員表彰規則を定め、教員表彰を実施する。 ○改善した研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保する。 ○常勤教員の授業担当科目数の実態調査に基づき、担当科目平準化の実施案の作成と一部を実施する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) ・研究費に占める研究奨励金の割合:30%	1	【平成25年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰については、改革推進委員会でベストティーチャー表彰を含む表彰について審議し、表彰制度が承認された。 ・教員表彰募集要領を定め、ベストティーチャーを1名選定した。 ○改善した研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保して研究奨励交付金制度を実施した。 ○常勤教員の授業担当科目数の実態調査に基づき、授業負担の大きい教員1名の授業に補助員をつけ、負担軽減を実施した。 ○目標実績 ・教員表彰の実施:2名(ベストティーチャー1名、日本学術振興会表彰1名) ・研究費に占める研究奨励金の割合:30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		40

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	1【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	1-1【平成25年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○教員個人業績評価基準の見直し・検討を行う。 ・個人業績評価基準の見直しに関する委員会の開催 ・評価基準見直し案の策定 ・教員に対するヒアリングの実施	1	【平成25年度の実施状況】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○教員個人業績評価基準の見直し・検討を行った。 ・個人業績評価基準の見直しに関する委員会を実施した。 ・評価基準見直し方針・見直し案を策定した。 主たる改善点は、①学長裁量を20%設ける、②記載書式を大幅に簡略化する、③中期計画目標項目を重点化する、である。 ①学長裁量20%については、教員の外部からの評価(受賞等)を主とし、透明性の高いものとした。 ・教員に対するヒアリングとして、両学部教授会から見直し方針・見直し案に対する意見を得た。これを受けて、さらに検討を重ね、最終案を3月の大学改革セミナーで公表した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		41
	1【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	1-1【平成25年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○調査した他の公立大学のリスクマネジメント体制を基に基本指針を検討 ○洗い出したリスク別の対応方法	1	【平成25年度の実施状況】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○調査した他の公立大学のリスクマネジメント体制や国大協、公大協の資料を基に基本指針(案)を作成した。 ○9分野において28のリスクを洗い出し、リスク別に対応方法(案)を作成した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		42
		ウェイト総計	25年度 4			項目数計		25年度 4

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

業務運営に関する特記事項(平成25年度)
○福岡県立大学憲章の制定
○改革推進委員会の設置、学内委員会・部会の抜本的再編

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。</p>
----------------------	--

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。</p>	<p>1【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額：年間5,000万円以上</p>	<p>1-1【平成25年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期の事務局機能支援の強化 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の検討 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の具体的検討,等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○科研費未申請者からの理由調査の実施と分析 ○民間企業や同窓会組織に対して、寄附金等を増加させるための広報活動を行う。 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額：年間5,000万円以上 ・科学研究費応募率：70%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く) 80%以上(上記に正当と認められる理由のある教員をさらに除く)</p>	<p>2</p>	<p>【平成25年度の実施状況】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○教員の協力のもと、早期から計画的に取り組むことで、事務局機能支援強化を図った。 ○ホームページに外部資金の応募要項等を適宜掲載、更新した。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の検討 ・科研費補助制度を創設し、申請者に対し助成を実施(100千円×3人)。 ○科研費応募率向上のための研修会を実施した。 ○科研費未申請者からの理由調査を12月に実施した。 ○福岡県立大学基金について、広報誌、ホームページで基金の目的や受入口座、税金の控除制度等を広報。広報誌は同窓会員に送付。 ○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額 100,551千円 (科研費 57,589千円、文科省補助金等 42,962千円) ・科学研究費応募率 :94.3% (現在科研費による研究課題をもっている教員を除き、正当と認められる理由のある教員を更に除く)</p>	<p>A⁺</p>	<p>【高く評価する点】 獲得金額は目標額の201%と大幅に上回り、科研費応募率も目標を大きく上回った。 【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.19 「研究」</p>	<p>43</p>

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成25年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○物品購入等の発注方法の見直しにより、消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○初期投資を要さない省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年	1	【平成25年度の実施状況】 【業務改善による経費の削減】 ○教職員に活用を周知し活用中。 ○国際交流関係業務について、25年度からアウトソーシング化を実施。 ○初期投資を要さない省エネ対策(節電対策)の推進 ・空調温度について、夏期28度、冬期19度を徹底。 ・待機電力や不要な照明の節電を徹底。 ○目標実績 ・業務改善件数 1件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44
	1【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	1-1【平成25年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○人件費の硬直化を回避するため、非常勤等職員の有期雇用の徹底を図る(労働契約法改正への対応) ○達成目標 ・平成25年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H25年度新規事業分を除く)	1	【平成25年度の実施状況】 【人件費の抑制】 ○退職教員の補充にあたり、若手を中心とした公募採用を行った。 ○非常勤職員の労働条件通知書に更新は2回を限度と明記した。 ○目標実績 ・25年度時間外勤務時間数: 前年度比 318時間減 (24年度 13,710H → 25年度 13,392H)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「経費削減」	45
		ウェイト総計	25年度 4		項目数計			25年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項(平成25年度)

なし

中期計画		平成25年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 広報活動の充実・強化 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開し、県大ブランド力を高める。	1【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1-1【平成25年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報における更新について、定期的に「チェック分担者リスト」によるチェック ○HPの全面的リニューアルに向け、トップページに掲載しているフラッシュやリリースニュースの見直しを検討 ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットの刊行 ・高校への出前講義によるPR活動 ・福岡県広報の積極的活用 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1	【平成25年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの掲載情報における更新については、広報部会員で分担しチェックを実施した。 ○オープンキャンパスの情報をトップページに掲載。フラッシュの見直しを実施した。 ○25年度から単位化した「プレ・インターンシップ」について、授業の様子をHPで広報した。 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実については、 ・「大学案内」及び「大学広報」などの広報パンフレットを刊行した ・高校への出前講義によるPR活動を実施した ・福岡県広報の積極的活用を行った 県広報番組(テレビ)で放映1回(不登校・ひきこもりサポートセンター) ○情報発信体制の整備 ・県立3大学が連携して実施する公開講座についてプレスに対し資料提供、記者会見を実施した。 卒業論文公開発表会についてプレスに対し資料提供を行った。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年発行 ・出前講義及びアンケート :回数26回 良好評価 98.9% ・教育プログラム照会の広報活動実績 :7件 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版18件/年 全国版 2件/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.5 「出前講義」	47
		ウェイト総計	25年度 2			項目数計		25年度 2

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成25年度)
なし

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
		費用の部	1,992	1,922	▲ 70	
		経常費用	1,992	1,921	▲ 71	
		業務費	1,736	1,698	▲ 38	
		教育研究経費	299	337	38	
		受託研究費等	43	1	▲ 42	
		人件費	1,393	1,360	▲ 33	
		一般管理経費	256	221	▲ 35	
		(減価償却費 再掲)	(72)	(91)	▲ 19	
		財務費用	-	0	0	
		臨時損失	-	0	0	
		収益の部	1,968	1,887	▲ 81	
		経常収益	1,968	1,887	▲ 81	
		運営費交付金収益	1,086	1,035	▲ 51	
		授業料収益	579	569	▲ 10	
		入学金収益	121	114	▲ 7	
		検定料収益	26	21	▲ 5	
		その他業務収益	-	0	0	
		受託研究等収益	-	1	1	
		受託事業等収益	-	-	-	
		補助金等収益	43	39	▲ 4	
		寄付金収益	0	1	1	
		資産見返物品受贈額戻入	49	45	▲ 4	
		資産見返運営費交付金等戻入	11	4	▲ 7	
		資産見返寄附金戻入	-	1	1	
		資産見返補助金戻入	11	12	1	
		資産見返補償金戻入	-	0	0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	38	39	1	
		臨時利益	-	0	0	
		純利益	▲ 23	▲ 34	▲ 11	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	23	35	12	
		目的積立金取崩額	-	-	-	
		総利益	-	1	1	

2. 資金計画予算

区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
資金支出	2,173	1,961	▲ 212
業務活動による支出	1,882	1,802	▲ 80
投資活動による支出	37	17	▲ 20
財務活動による支出	-	23	23
翌年度への繰越金	254	118	▲ 136
資金収入	2,173	1,961	▲ 212
業務活動による収入	1,895	1,803	▲ 92
運営費交付金による収入	1,086	1,025	▲ 61
授業料等による収入	727	692	▲ 35
受託研究等による収入	0	1	1
補助金等による収入	43	39	▲ 4
寄附金等による収入	-	4	4
その他収入	37	39	2
投資活動による収入	0	0	0
財務活動による収入	-	-	-
前中期目標期間繰越積立金取崩額	23	-	-
前年度からの繰越金	254	157	▲ 97

II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。	該当なし	-
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし	該当なし	-
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。	該当なし	-
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし	該当なし	-